クエンティン・タランティーノの不良性感度
～70 年代東映作品との共鳴～

2231058 佐藤駿成（小久保利己ゼミ）

要約

映画監督クエンティン・タランティーノの作品と 70 年代の東映作品は「不良性感度」という言葉をキーワードに共鳴していると言える。

彼の作品に共通して見られる時系列を排除した「錯時法」は、70 年代日本でも採用されてきた「連続上映」「流し込み制」といった上映形式の模倣であると考えられる。

また、彼が描く女性キャラクターは女性性と暴力性を併せ持つという点で、70 年代に盛んに製作された東映ポルノで描かれる女性像と類似している。この二重性を持つ女性像は、父権社会に抵抗し得る強さを帯びるという点でも共通している。

70 年代東映作品に共通する過激な暴力表現は観客が快楽を得るためカタルシスとして用いられてきたが、彼はこれを取り入れながら、あえて不快（反道徳的）な描写を追加することで独自性を獲得した。

タランティーノは「不良性感度」という言葉を掲げ躍進した 70 年代の東映のように、型破りな演出方法で新たな映画体験を提供し続けている。